

扶桑昔廟最初
防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名
「酒部山」からとったものです

佐加太利

令和3年
秋冬号

108号



目次

1 点描／雪景色

2 巻頭言

3 試練を乗り越えて
「勝間の浦」を裸坊の聖地に

5・4 防府天満宮鎮座考と
御神幸祭下

〜防府天満宮創建と御神幸祭のはじまり〜

寄稿

7・6 小川治兵衛との

思いがけない巡り合わせ
〜茶室「芳松庵」開庵二十年によせて〜

8 天とて会新会長就任のご挨拶

崇敬会だより

TOPICS

9 ご結婚おめでとう

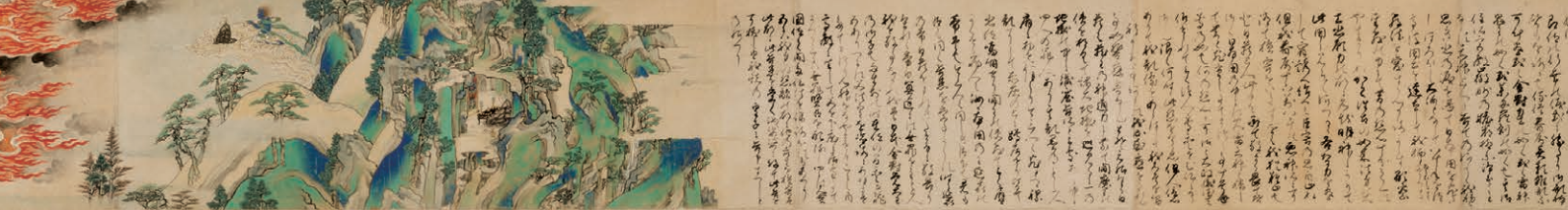
ひたぶる

11・10 社務所だより

天神様の夏から秋〜日誌抄〜

予祝詣・初詣

12 新春祭事行事



松崎天神縁起絵巻の巻末部分。松崎天神の御祭りの様子を詳しく描き、その由縁を記述している。文字は縦書きで、墨色は濃淡を利かして書かれている。



コロナという試練が教えてくれたもの

宮司 鈴木宏明

この夏開催された東京オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルスの影響で一年延期され、開催さえ危ぶまれる事態でありました。しかし大会ではアスリートは基より多くの関係者のお蔭で私たちに素晴らしい感動を与えてくれました。そして日本の木の文化を内在させた新国立競技場や多様性への理解といった多くのレガシー（遺産）を残して終えることができたと感じております。

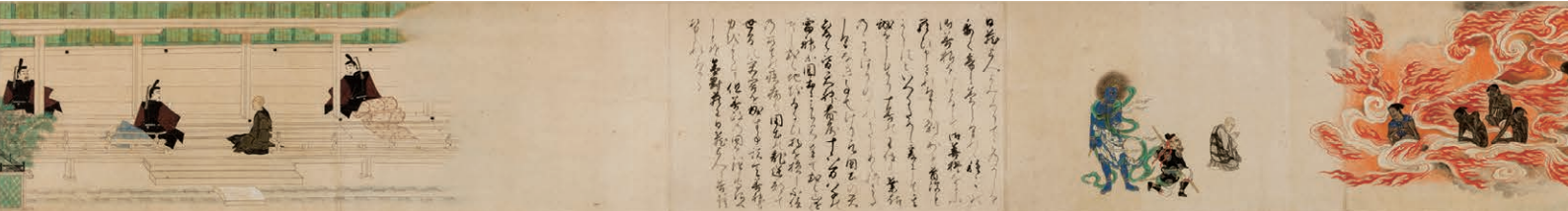
花神子社参式と御神幸祭（裸坊祭）はコロナ禍のため二年連続で縮小しなければなりません。花神子社参式では、本来なら五百人にも及ぶ王朝絵巻さながらの行列が花神子さんとは極わずかのお供による社参となりました。また御神幸祭も裸坊のいない寂しい祭りとなりました。これも私たちに与えられた試練だと覚悟を決め、氏子崇敬者の皆さんと力を合わせ神様に失礼のないように真剣に奉仕させて頂きました。そのような状況の中で観光コンベンション協会と市内企業が協力して御神幸祭をYouTubeでライブ配信して下さいました。お蔭で防府出身者を始め一人を越えるいろいろな方々にご視聴頂き「お旅所であるなごとしちよったん！」とか「それはそれで厳肅な感じで素晴らしい」といったコメントを頂きました。大変有難いことではありましたが、私たち神職は御神幸祭の中身を一般の方々があまりご存じないことに驚きませんでした。

しかし裏を返せば私たちはこの試練を体験したことで、「御神幸祭は菅公御着船の地勝間の浦で『無実の知らせ』をご奉告する祭りである」という本来の意義を充分にお伝えしていなかったことに気付きました。反省する機会を得ることができました。

花神子社参式も同様で、去年今年と大行司小行司が造った「御酒」を花神子さんと僅かなお供が奉献することで、改めて「花神子社参式は『御酒』が主役である」ことを皆さんにご披露することができました。

この二年間、コロナ禍という前代未聞の試練のため、止む無く祭りが中止や縮小となりました。氏子崇敬者の方々を始め、なんと言いましても天神様に大変申し訳ないことではありましたが、逆にコロナは試練を乗り越える中で、私たちにその先へと進むべき道を教えてくれたような気がしています。

※本ページの天地に掲載した（重文）松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその  の部分を紹介しています。



試練を乗り越えて 「勝間の浦」を裸坊の聖地に

我が国最古の古典である『古事記』にはオオナムチという神様について描かれています。この神様は、ある時スサノオの娘であるスセリビメと結婚するためにスサノオから試練を与えられました。オオナムチは見事にこの試練を乗り越え大国主命となり、国造りを成功させました。この神話は、コロナと対峙する今の私たちに試練を乗り越える意味を教えてください。

「花神子社参式」の原形は、江戸時代までに遡り「おはげ上げ」と呼ばれる神事にありました。

「おはげ上げ」とは、元々は「御酒」をお供えする神事で、寛保元年（一七四一）『天満宮寺社役勤方事』には「九月九日当日大行司と承仕七左衛門は御酒を二器に分け、鳥居より花神子社舞殿まで持つて参り」とあります。現在でも「花神子社参式本殿祭」の祝詞奏上時には「秋の初穂をもって斎戒沐浴して作られた素晴らしい御酒を献じますのでお受けください」と奏上されます。

また、「御神幸祭」は、御旅所で「無実の罪」を伝え、道真公の無念さを表す荒魂をお慰めするお祭りです。昔より御旅所には道真公の荒魂を祀る「荒神社」が祀られていましたが現在は神さびてしまっています。

そこで、「御神幸祭」をよりご理解いただくために御旅所を整備し「勝間の浦」を裸坊の聖地にしたいと考えています。その第一弾として、御旅所の一本松に菅公の御神霊が降臨したと伝わることから「荒神社」を「降臨の一本松神社」と称し、再建することとしています。

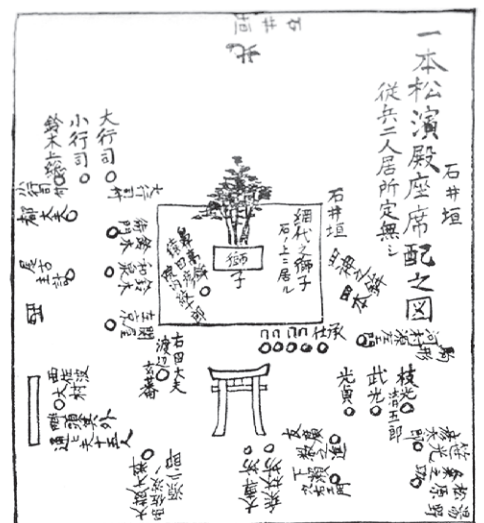
コロナにより様々な神事が縮小を余儀なくされましたが、大国主命が試練を乗り越えて国を造り繁栄させたように、氏子崇敬者の方と力を合わせこの難局を乗り越えて、防府の天神様の更なる御神徳の昂揚に努めてゆきたいと思えます。



▲「花神子社参式」の原形を示す幟旗を先頭に大行司(中央)と共に進む「御酒」



▲一本松は代替わりをしています。現在でも松の前で菅公の御神霊を安置して神事が執り行われています。本年(令和3年)は松を象徴するためのライトアップを施しました。



天神様といえば梅がシンボルですが、天満宮と深く関わるものとして松があります。防府では御着船された勝間の浦の一本松に菅公の御神霊が降臨され防府天満宮が創建されました。以来この松は降臨の一本松と言われています。北野天満宮や大阪天満宮などでも同様に神社創建と松にまつわる故事が伝えられています。

▲一本松神社の名づけの由来 ~天神様と松~

防府天満宮 鎮座考と 御神幸祭 下

防府天満宮創建と
御神幸祭のはじまり

松崎光太郎



東帯天神像
江戸時代毛利氏お抱え絵師
である雲谷等顔によって描
かれた天神さま。(当宮蔵)

④⑤により、左遷のみぎりにおける道真公の心情の変化と西下のルートを考察してきました。今回は先述したことを踏まえた上で、何故一地方都市にすぎない防府の地に日本最初の天神さまが創建されたかについて紐解いていきます。

防府の土師氏について

左遷の西下は「無実の知らせ」を待ち望む旅路でありました。しかし一向に届かぬ無実の知らせに次第に焦りの船旅となり、遂に本州最後の寄港地として防府へご着船されました。

当時の防府は周防国の国府が置かれ、多くの役人・豪族が治めておりその中に「土師氏」がいました。

土師氏は天穗日命の子、武夷鳥命より十三代の野見宿禰が「土師」を名乗ったのが最初で、同じく土師を祖とする菅原家と同族です。家業は主に土木や葬儀で、防府の土師氏は推古天皇の時代、九州でお亡くなりになられた来目皇子の殯宮(仮の墓)を防府に建造した際に派遣された土師連猪手の子孫だと言われております。道真公ご着船の際も防府には多くの土師氏が役人として仕えていました。



▲重文【松崎天神縁起絵巻 第6巻】
道真公の魂が帰ってこられた事に驚く周防国国司土師信貞(防府天満宮大宮司家の祖)と里の人々

防府での道真公

昌泰四年、道真公は無実の知らせが届く最後のチャンスとなる本州最後の寄港地防府の勝間の浦に上陸されました。しかし残念ながら京都から無実の知らせは届いておりません。その事を知ってか知らずか、同族である土師氏と里人は道真公をおもてなしいたしました。しかし、人々の歓待とは裏腹に深い失意の中におられた道真公は、「この地未だ帝土を離れず願わくは居をこの地に占めん」（無実の知らせを帝の居られる京都と地続きであるこの防府で待っていた）【松崎天神縁起絵巻】と、お言葉を残されました。まさに道真公にとって単なる一地方都市であった防府が特別な場所に昇華した瞬間でありました。

松崎の社（防府天満宮）創建

失意の中、大宰府へ出発された道真公は、延喜三年（九〇三）願いも虚しく大宰府でお亡くなりになられました。その時防府では、「空から神光が差し山に不思議な雲が棚引きました。この現象に里の人たちは道真のお御霊が、無実の知らせを待ったために京都と地続きである



▶「防府天満宮三十五代官司武光（土師）信雄」（大正元年）
大官司武光家は、道真公ご着船時の周防国司土師信貞の子孫で創建より大正まで三十五代にわたって防府天満宮大官司家として仕えた。

この防府の地に魂が戻って来られた」と悟り延喜四年（九〇四）、土師氏は道真公の残されたお言葉を具現化するべく魂の居として社殿を建立し、松崎の社（防府天満宮）と号しました。【松崎天神縁起絵巻】道真公をお祀りした日本最初の天神さまの誕生です。

しかしお墓である安楽寺（大宰府天満宮）建設に二年もかかったのに比べ、わずか一年という期間で神社が建立されるのは、あまりにも早すぎると思われる。この点について議論はありますが、特に注目するのは「土師氏が自らの氏神である天徳日命・武夷鳥命・野見宿禰をお祀りした場所に併せてお祀りした」（松崎神社鎮座考）という説です。ご先祖様と一緒に祀ることにより自然に神として受け入れられたと思われれます。だから現在でも防府天満宮では菅原道真公と土師氏と菅原家のご先祖である三柱の神がご一緒にお祀りされているのです。

百年後に届いた「無実の知らせ」御神幸祭

防府天満宮創建より百年後、一条天皇が北野社を参拝した際に、勅使降祭（毎年勅使が遣わされ行方祭り）が斎行されました。防府の人々はこれをもって百年後に届いた無実の知らせと解したのでした。勅使がわざわざ防府に遣わされたのは、中央と太い繋がりがあったと考えられる土師氏の力も関係していたと考えられます。その後、この勅使降祭は「無実の知らせ」を奉告する祭りとして土師氏や国府役人の子孫達に受け継がれ、現在まで御神幸祭として連綿と斎行されております。

以上①②③のまとめ

昌泰四年（九〇一）道真公は西下の際、無実の知らせを望みながら京都から山陽道を進み、途中船に乗り換えて四国松山を経由し瀬戸内海を進み、本州最後の寄港地である防府へご着船されました。しかし、無実の知らせは届かず「京都と地続きであるこの防府の地で無実の知らせを待ちたい」と望まれるも大宰府で、延喜三年（九〇三）

お亡くなりになられました。その時防府では瑞光が差し、瑞雲が棚引きそれを見た土師氏は、道真公の無実の知らせを待ちたいというお言葉通り魂となって防府に帰ってきたと悟り、そのお言葉を具現化するべく魂の鎮まる場所として延喜四年（九〇四）日本最初の天神さまであるお社が創建されました。そして創建から百年後の寛弘元年（一〇〇四）に一条天皇の勅使が遣わされました。土師氏をはじめ防府の人々は、この勅使降祭こそ道真公が待ち望んだ無実の知らせであると喜びました。まさに「防府の天神さま」になった瞬間といえます。その後、土師氏などを中心に、道真公の魂に喜んで頂くべく勅使降祭は「無実の知らせ」を伝える祭り、「御神幸祭」として毎年行われ現在に至っています。道真公の御神徳は学問の神様としてはもちろん防府の私達には「正直」の神、「志」の神として受け継がれています。



▲道真公上陸の地「勝間の浦」（お旅所）では、毎年無実の知らせを奉告しています。

小川治兵衛との 思いがけない巡り合わせ

茶室「芳松庵」開庵三十年によせて

芳松庵庭司 山本 貝かみ弥



小川治兵衛に学ぶ

※うえじ
「植治」こと小川治兵衛という名を聞いたことがありますか？明治・大正・昭和初期にかけて京都を始め東京から西は山口まで多くの名園を残した造園家です。「植治」は山縣有朋の意向を受けて近代庭園の魁とされる京都東山の「無鄰菴」の作庭で名を揚げ、「円山公園」「平安神宮神苑」「南禅寺界限別荘群」の庭を手掛け、「桂離宮」「修学院離宮」の改修まで多くの足跡を残しました。最近でもその価値が再認識され「植治の庭を見る会」も出来て注目を集めています。山口にも「松田屋ホテル庭園」が残っていますが、知事公舎、銚谷氏別邸の庭は近年壊されてしまいました。実は、芳松庵の造園を大江設計（建築）から依頼された東京の岩城造園の創業者である岩城千太郎は小川治兵衛の甥にあたります。「植治」の支配人となり、多くの庭に携わっています。その後東京に出て、昭和を代表する造園家の一人名となりました。その千太郎氏の晩年に岩城造園に在職して山口に帰っていた私が「芳松庵」の庭工事

を担当することとなりました。私にとって両師ともに雲の上の人であり、力量が全く及ばない者ですが現場に立つことになりました。天満宮・大江設計・大成建設との打合せで表門脇の滝口から小流れと池が敷地の中央を西から東端の池尻へと流れて、池の北側に大広間、南に露地庭が東側の茶室（芳松庵）に達するというプランになりました。

※「植治」は屋号

芳松庵庭司になる

平成元年の秋、いよいよ「芳松庵」の工事が始まります。敷地が表参道に面して搬入路が狭い裏参道となり、重機を使用する庭工事と建物の基礎工事が先行する事となりました。参道側から苑路、高木の植栽、滝、流れ、池上の石組と仕上げを頭に描きながら進めます。年月を経た感じは大事です。表門からの最初の苑路には参道に使われて踏ずれした物が見つかり、橋石にも良いものがあり幸先の良い始まりです。敷地が広くない為、大広

建築概要・平面図
北44



間から池の向こうに露地庭を眺める形となり、大広間付の八畳を寄付待合と考え、池を渡る短冊の橋石を通って露地に向かいます。石橋から小舟で茶室下の船着石に向かうルートも想定しました。石橋の上から東に大平山が見えます。露地庭は大平山麓の里にある庵に向かって行くイメージです。竹の結界を開け玉石の苑路を進むと外待合があり、一服して迎え付を待ち、先に進みます。湧水があり、杉木立の山道に入ります。敷石は小鯖おさだの山石です。地元の材料をなるべく使いました。山道を越えると四ツ目垣があつて山里の庵が見えてきます。飛石も佐波川の石に変えました。板折戸を入



▲造園記念碑

治兵衛との再会

その最終の段階で大広間の中庭に植える「青軸の梅」を境内で求めている時に酒垂山公園の中で「造園記念碑」と刻まれた大きな石碑を見つけました。

と中待合があり、手水鉢で手と口を清めて躰口から茶室に入ります。池からの石垣は大平山の山石です。茶室は広間から渡り殿を通り花頭口から入る事もできます。舟着石から石段を登って入る池側の障子口が貴人口です。三位以上の貴人さん用という設定ですが、庭を眺める窓の役目もしています。茶室には水屋があり、裏門から水屋口までは亭主の通路庭になります。大広間から見える池の護岸も玉石の州浜、切石積、そして山石の石垣と変化を付けました。植栽は楓を主体に自然形のものを選びました。工事は表門・無料休憩所・四阿と進み、平成二年五月の上棟式を終え、大広間の大工工事が始まり、雨落や差石といった庭工事を終え、渡り殿・茶室が出来上がり、池尻の石組から裏門までを納めて平成三年三月二十五日が竣工式となりました。

漢文で刻まれた由来を読みますと「風光明媚な高秀の地天神山に明治三十三年の砂防工事に始まり、造園工事が菅公の御加護により完成した。」と大正四年五月の日付で刻まれており、総裁楳取素彦、以下会長、寄進者と続き、造園担当者のところに「京都・小川治兵衛」と刻まれているのです。驚きました。その場所に不思議な気配さえ感じました。建築と造園が前後しながらの一年半に近い工事が更に感慨深いものとなりました。

しかし、ここが終わりではありません。庭は「つくり半分」「育て半分」と言われます。植物の生長の早い日本の風土では、その成長を抑える必要があります。侍文化の江戸では庭を上から外から眺める盆景のような庭が発達し、長く続いた江戸期に庶民にも刈り込みの庭が定着しました。イギリスの自然庭園を見てきた山県有朋は雄大な自然風の庭を作ろうとしましたが、京都の「無鄰菴」は広い敷地ではありません。その庭を「植治」は東山を借景に自然を取り入れた雄大な庭に見せるセンスと技術を持っていました。京都の狭い庭や茶室では視点が木の下にあり、枝を「透かし」て景色を味わう「空かし」の技術がありました。

三十年の時を経て

芳松庵の木や灌木は「空かし」の手入れをしてきました。私の考え方も入れて、より自然に見えるようにと「手」入れをしてきました。三十年の時を経て「植木屋の植木」がやっとのびやかに枝を出してくれるようになりました。「ほったらかしの山の中のような庭じゃないか…でもなんとなくホッとする」と思っただけなら嬉しく思います。

秋に用意された木々の芽は春が近づくと色付



▲茶室建設以前の敷地はゲートボール場でしたが、30年の時を経て、みごとな庭園となりました。

き膨らみ始め、そして花を付け若葉を広げてゆきます。夏には充実した葉となり日陰を作り、養分を蓄え、次の春の準備が済めば、美しい色模様を残して散ってゆきます。冬には苔の緑の上を小雪が化粧を施します。刻一刻と変化していくものを、その時・その時を、楽しむことを茶庭は目指しています。

芳松庵を訪ねて下さい。お待ちしております。

天とて会

新会長就任のご挨拶



会長
中村大二郎

「天とて会」とは？

防府天満宮は、令和九年に御神忌一一二五年式年大祭を迎えます。その歴史ある防府天満宮には、さまざまな神事・行事を行うために総代会、敬神婦人会をはじめとし

た外郭団体が存在しますが、天とて会もその中のひとつと受け止めています。

天とて会は略名で正式には、「防府天満宮をとでもよくする会」が正式名称です。表参道にある「天とて屋かふえ」の入口を入って振り返った上の額にその謂れがあります。初代会長は、商工会

議所会頭・観光協会会長を務められた故大村俊雄さん、二代目は商工会議所副会頭、観

光コンベンション協会会長を務められている羽嶋秀一さんが当たられて来年、発会三十年を迎えます。「天満宮が

防府の中心」だから天満宮のお賽銭が増えることが「まちづくり」に繋がるんだ(笑)」

という理念のもと先輩たちは活動してこられました。

「天とて会」のあしあと

「天とて会」のあしあと

御誕辰祭の最大の催しは花火大会ですが、「天とて会」発会以来行われている「万灯の夕べ」は防府の風物詩としてすっかり根付いています。

この防府天満宮の階段を中心に展開される幻想的な献灯は、神社という厳かな空間の夜に彩りを添えています。

毎月一日午前六時三十分

に開催される「朔日詣り朝粥会」もすっかり定着しております。お祓いに始まり宮司の

卓話を聞き、季節折々のお粥をいただく。厳かな早朝の

清々しい防府天満宮に小さな賑わいをもたらしています。



朔日詣りでは神殿にて神職と共に大祓詞を奏上。1月は七草の日に七草粥を戴きます。

「天とて会」のこれから

令和三年六月に立ち上がった新生「天とて会」は、三十才〜五十才代を中心としたメ

ンバーで構成されています。

これまで、私たちは青年会議所活動や仕事などそれぞれ

の立場で天満宮に関わってき

ていましたが実は天満宮につ

いて、知っているようで知らないことが多くあると気づ

かされました。今後活動して

ゆく中で、天満宮の様々な祭

事、行事をはじめ基礎的な知

識も改めて学ぶ必要があると

考えています。

今後、人々の考え方も多様

化するであろう令和の時代に、防府天満宮はどう在る必

要があるのか？私たちは先輩方の足跡を辿りつつ我々の世

代ならではの、防府天満宮をとでもよくする、在り方を見

つめ、新生天とて会らしい考

え方に立って、来たる御神忌一一二五年式年大祭が素晴らしいものとして迎えられるよう行動に移してまいりたいと思っております。

中村大二郎プロフィール

昭和四十三年生まれ。防府市出身。中村被服株式会社 専務取締役。平成二十年 防府青年会議所 理事長。令和元年より防府天満宮総代。

▼天神山から望む防府の町並〜私達はめまぐるしく変わる世の中にあっても天神様は常に「心のふるさと」であって欲しいと願っています〜



この秒数なんだかわかりますか？

これは、今年6月に山縣亮太選手が樹立した男子100mの日本新記録です。

山縣選手は広島県出身で毎年お正月にはご家族で当宮にご参拝頂いています。お母様は「亮太はお腹の中にいる時から防府天満宮にお参りしていますよ(笑)。ここに至るまでには怪我などに悩まされたと思いますが、日本新記録を達成できたのは、本当に天神様のお蔭があったからだと思います。」とお話下さいました。

これからも天神様パワー(笑)で益々のご活躍お祈り申し上げます。



▲絵馬にはもちろん「9秒台」！(平成29年正月)



▲東京五輪日本代表が決定後の7月4日に山縣選手に代わりご両親が日本新記録樹立と東京オリンピック日本代表決定の報告と感謝、併せて必勝祈願にご参拝になられました。

新規会員紹介

令和二年十一月一日以降入会の方々です。(敬称略)

特別法人会員

アイリスセンタークリニック
防府市西浦

法人会員

榊光金属 防府市江泊

特別会員

澄川定登 高根県鹿足郡
新田芳郎 周南市横浜町
谷本光也 防府市沖今宿
岡本英生 山口市鑄銭司
秦 盛政 防府市開出本町
守部義和 防府市南松崎町

家族会員

市川俊支枝 防府市警固町
石川やなぎ 長門市西深川

個人会員

落合菜穂子 栃木県下野市
森口彩乃 防府市伊佐江町
西林千世子 山口市小郡下郷
原田愛子 防府市警固町

※崇敬会(入会)ご希望の方は、同封の崇敬会の手紙を(覧下さい。

中嶋忠勝 埼玉県人間市
本園正春 防府市高井
高橋 誠 防府市天神
和崎正雄 萩市須佐
猿谷 豊 埼玉県草加市
石本孝志 熊本郡平生町
田戸哲一 防府市美和町
藤井昌弘 防府市真尾
原 卓郎 宇部市東岐波
山久 仁 防府市華園町
藤井芳雄 防府市東佐波令
藤本静子 岩国市今津町
石田 昇 広島県尾道市
藤松 勝 防府市田島
森脇明行 防府市千日
吉本 克 静岡県浜松市
重永義昭 周南市野村

塩見博己 兵庫県豊岡市
枝木 理 滋賀県大津市
飯田裕美 防府市緑町
谷合真琴 東京都昭島市
山下 学 防府市田島
渡邊裕子 山口市平井
清水喜香 防府市牟礼
上田美枝子 山陽小野田市
大野之 広島県廿日市市
島中富美子 周南市城ヶ丘
原田ミサエ 防府市新田
河野孝子 防府市千日
鈴木大翔 愛知県あま市
鈴木勇登 愛知県あま市
和田文子 防府市岩島
岡田春雄 大阪府大阪市
中島美代子 山陽小野田市
吉國貴子 宇部市新町

ご結婚おめでとう

お二人の末永い幸せをお祈り致します

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 令和3年(神社奉式分/敬称略) | 11月3日 新井 直樹・希望 |
| 6月6日 山野 聖也・祥子 | 6日 米澤 恒成・眞子 |
| 7月10日 金子 大祐・孝美 | 7日 古谷 和彦・里菜 |
| 21日 松本 明・由美 | 山本 晃貴・怜香 |
| 9月19日 道城 正和・美日子 | 12日 百合野 俊紀・典子 |
| 10月2日 飯田 真嗣・愛美 | 19日 河村 大智・満里奈 |
| 16日 山本 惣一郎・千晴 | 20日 園島 健・香織 |
| 17日 山本 典孝・智世子 | 糸乗 克・円 |
| 23日 平谷 直也・光 | 12月11日 國永 貴彦・綺子 |

※ 神前結婚式のお申込みは随時受付しておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。(TEL0835-23-7700)

崇敬会だより

ある日、雅楽の師から「稽古するとはどういうことか分かりますか」と問いかけられたことがある。突然の問いに対して暫し考え込んでしまったが、どうにもうまく答えることができなかったのを覚えている。

思い返せば、確かに師はいつも「よく稽古しておくように」とか「次の稽古の時には…」というように、「練習」ではなく「稽古」という言葉を使っておられた。その日帰宅して稽古という言葉調べてみると、古事記の上つ巻に「古を稽て…」と記述されており、そこで私は「稽古」の意味をようやく理解することができた。

言葉というものは本当に難しいが、神道では更に特殊なものが多い。私は神職への道を歩み始めてから「祝詞」や「言霊」という言葉の存在を知った。その言葉には日本の豊かな伝統が含まれており、神職は言葉の意味や成り立ちについても思慮が必要だと感じている。

あの時の師からの問いかけのお蔭で、何気なく発していた言葉にも深い意味があるということを知り、以来、私は言葉を大切に扱い、常に神明奉仕への気持ちを深めることに努めている。

ひたぶる

福宜 鈴木英樹

七夕まつり

では新たな行事としてシャボン玉パフォーマンス「祈泡」が行われました。光がシャボン玉を映し出し満天の天の川の様子に境内が彩られ、ご参拝の方々も暑さも忘れてひと時の幻想的な七夕まつりに酔いれました。



▲7月3日シャボン玉のお兄さんお姉さんによる「祈泡」の様子



▶楼門下には虹色に輝く「アンブレラスカイ」が設置されました。

日誌抄

(令和三年六月～十二月)

9月1日	29日	5日	4日	3日	30日	30日	25日	24日	23日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	16日	15日	14日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日										
毎月1日、15日、25日は月次祭	毎月1日は朝日詣り・朝粥会	毎月25日は天神市・縁日・月次茶会(記載以外は全て中止)	毎月25日は天神市・縁日・月次茶会(記載以外は全て中止)	*新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、※中止、※影響関連事項	6月1日	3日	20日	21日	25日	26日	27日	30日	7月1日	7日	30日	27日	26日	25日	24日	23日	22日	21日	20日	19日	18日	17日	16日	15日	14日	13日	12日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日
炎禍除御守頒布開始※朝日詣り並朝粥	責任役員会	※職員による二班編成による奉仕体制解除	総代就任奉告祭	総代会 ※月次茶会	山口ゆめ回廊博覧会(対談イベント)於茶室芳松庵	防長海軍忠魂碑慰霊祭・同奉納剣道大会	夏越神事・大祓式・お田植祭	七夕まつり・期間中笹飾り短冊奉納、光の斎庭・傘王アート、アンブレラスカイのみ、七夕笹飾り奉納(双葉幼稚園・多々良幼稚園・松崎幼稚園・瑞祥幼稚園)※参拝	※牛乳パック灯籠その他行事	朝日詣朝粥再開	シャボン玉イベント「祈泡」	筆まつり並筆まつり七夕書道展※同表装式	七夕祈願祭並国家安泰祈願祭	東岐波中学校107名合格祈願祭	御誕辰祭奉納清書展二次審査	梅の土用干し開始	東京オリンピック二〇二〇開幕	春風楼五重塔復元模型奉納式	月次茶会花雅会奉仕	花雅会グループ花展	劇場見学防府商工高校生1名	※夏休み子ども教室	朝日詣(朝粥会)行	御誕辰祭(夏祭り)	万灯の夕べ、新型献燈ボンボリ奉納、文芸ボンボリ奉納 ※ピアガーデン・ゆかた茶会(敬神婦人会)	奉納清書奉告祭、三日祭並万灯祭並同点灯式・剣道大会	※奉納清書表装式・子供横みこし・カラオケ大会・防府天神太鼓奉納演奏・大茶碗茶会(山本百次会)	四日祭並豊稈祈願祭、古武道大会、柔道大会	※夫婦門満祈願祭・浴衣&歌謡コンサート	※遠的弓道大会は奉祝弓道大会として市部道場に於て実施	御誕辰祭当日祭、臨時役員会、総代会、少年剣道大会、まほろば会新三役会議 ※大花火大会、和太鼓奉納演奏・クラブを楽しまう・都山流尺八楽観山会邦楽コンサート(茶室)	職場見学誠英高校生徒2名	総代長・式典保存委員長・責任役員就任奉告祭	東京パラリンピック二〇二〇開幕	臨時役員会(花神子社参式縮小が決定) ※月次茶会、天神市	式典保存委員会 ※朝日詣・朝粥会	お籤上げ神事、鈴虫放生祭(大専坊) ※参列者無し	防府菊会総会	客殿改修工事開始	お手廻り保存会理事会	中秋の名月朱印頒布	御分霊奉送式・大小行司役宅祭

天神様の夏から秋

御誕辰祭

は昨年同様ブルーライトによる光の帯が奉納されました。今年も御誕辰祭は東京オリンピック開催期間と重なり、防府市がホストタウンを務めるセルビア共和国の女子バレーチームの健闘を祈り、赤・青・白のセルビア国旗も登場しました。



▲ブルーライトによる万灯の夕べとセルビア国旗



▲本年よりボンボリのデザインをデータ化することで御誕辰祭献燈ボンボリが一新されました。これによりボンボリデザインを自由に行えるようになり、独自のロゴなどを用いて献燈することが可能となりました。

◆デザインが自由に行えるようになった献燈ボンボリの一例
 お店の情報などをボンボリを通してSNSへ発信・お届けできます。企業・商店・一般個人の方も是非ご奉納下さい。
 献燈料 一燈 三千円



QRコード

花神子社参式

御神幸祭の
無事成功を祈る祭



大行司役
藤井浩氏



小行司役
清水基治氏



花神子役
大村朝陽さん

客殿改修工事



▲※現在の様子（11月27日撮影）

が進行中。これにより長年の懸案でありました外部から御殿へのバリアフリー化と、祈願受付所の改善が実現します。車イスでのご参拝や結婚式の参列の方はスロープを使い（室内用車イスに乗換）安心してスムーズに御殿へお進み頂けるようになります。

新任のご紹介

新入巫女

（敬称略）



- 総代長 宇野好一（五行事区役員）
式典保存委員長 村田敏夫（九行事区役員）
責任役員 山根耕太郎（四行事区）
白石民彦（一行事区）
氏子総代 久田博（二行事区）
八月二十一日付
十一月二十九日付
六月二十一日付

畠中 美沙
（下松市出身）

22日	裸坊奉仕会三役会（※今年の御神幸祭で御網代・神輿の不出御と裸坊奉仕無しが決定）
23日	秋季祖霊大祭、海軍少年電信兵第六十八期会慰霊祭
25日	秋祭※月次茶会、天神市
26日	花神子社参式役付児童説明会
27日	臨時役員会
28日	末社愛宕社権現祭（※御神幸式）
29日	※例年9月の諸行事 お手廻り保存会宣誓式、敬神婦人会研修旅行、防府天満宮杯将棋名人戦
10月1日	※朝日詣・朝粥会 印章祭
3日	山陽小野田市立植生中学校三年生41名合格祈願祭
5日	山陽小野田市立厚陽中学校三年生8名合格祈願祭
7日	タレント 出川哲郎氏参拝
8日	花神子社参式（※縮小・順路変更）同奉祝池坊奉納花展※奉祝茶会
11日	山陽小野田市立竜王中学校三年生78名合格祈願祭
13日	御神幸祭供養委員会総会、氏子青年部若梅会注連縄奉製作業開始
17日	毛利家秋祭
24日	天神市（※2カ月ぶり再開）※月次茶会
25日	巫女神楽舞研修先崎徑子先生ご指導
26日	周南市立鼓南中学校三年生5名合格祈願祭
29日	山口県神社庁防府支部大麻頒布始祭（於参集殿）
30日	※例年10月の諸行事 裸坊特別懇話会・裸坊安全協議会、愛情防府フリーマーケット・天神芸術村・書道ハフォーニス
11月1日	朝粥会（※2カ月ぶり再開）、宇部市立厚南中学校三年生140名合格祈願祭
1日	第六十六回防府菊花展（於楼門前庭）
2日	東京都靖国神社宮司山口建彦様正式参拝、広島県廿日市市速合神社宮司櫻井建弥様正式参拝
3日	防旅二期生慰霊祭、宇部市立常盤中学校三年生134名合格祈願祭
6日	防府みらい塾
6日	防府天満宮杯少年野球大会（※開会式のみ無し）
7日	第六十六回奉納菊花展表彰式
8日	みどり保育園児22名七五三祈願、宇部市立黒石中学校三年生129名合格祈願祭
12日	氏子青年部若梅会注連縄奉製作業
15日	七五三
16日	福岡県太宰府天満宮崇敬会肥木連合会40名正式参拝
18日	注連縄取付作業氏子青年部若梅会奉仕、大職立ておはけ
19日	大小行司夜々詣
21日	菊花無料切分け、すごい防府イベント酒垂神社日本酒まつり
25日	大祓、※蔵出し
26日	御神幸祭前夜祭
27日	御神幸祭（※御網代・神輿不出御、裸坊奉仕無し）
28日	御神幸祭報賽祭・神上式、※天神おんな神輿
29日	※防府邦楽舞踊連盟奉納邦楽演奏会 責任役員就任奉告祭※蔵納め
12月1日	※例年11月の諸行事 役員総代研修旅行、裸坊実行委員会、天神おんな神輿説明会 破魔矢奉製始 例祭併せ神宮大麻頒布始祭、節分参予会、干支の御柱奉納 大祓詞浄書会 宇部市立宇部中央高校3年生160名合格祈願祭 合格はちまき洗濯 大祓詞浄書会 正月臨時巫女奉仕者説明会 葛根い敬神婦人会奉仕、疫病退散門松設置 古絵馬焼納神事 防府天満宮予祝詣 年越大祓式
31日	※例年12月の諸行事 天神おんな神輿写真コンテスト表彰式



天神様から「幸せます」
※幸せますは山口の方言で「ありがたい」とか嬉しく思うことの意味があります。

清掃奉仕
ご奉仕ありがとうございました。

- 7月6日 高川学園サッカー部様
- 7月24日 松崎地区子供会160名様
- 7月31日 佐波地区子供会270名様
- 9月23日 勝間警固町有志様
- 10月1日 松崎地区老人クラブ30名様

奉納品
ご奉納ありがとうございました。



7月24日
「防府天満宮五重塔復元模型」
白井那瑚様
※奉納された模型は歴史館で展示中

- 9月26日 新米30キロ (有)KOC 稲葉豊美様
- 10月7日 ミネラル笑顔米15キロ (有)スナハラ様
- 10月26日 幸せますコシヒカリ一俵 丸久様
- 11月4日 新米30キロ 全国農業協同組合連合会山口米穀事業所様
- 11月17日 イセヒカリ30キロ ライスフレンド様
- 11月18日 新米105キロ 佐伯康男様
- 11月25日 受験におちない・すべらない「合格マンホール」友鉄工業様
- 12月5日 干支の御柱（寅） 林隆雄様

こころ 新たに
年の始めは天神様へ

初詣の ご案内

旧年の感謝を
捧げるとともに、
新年の幸せを願ひ
天神様へ
ご参拝頂きますよう
ご案内申し上げます。

●交通規制について●
元日から3日まで当宮周辺は交通規制があります。
詳細は同封の「防府天満宮初詣おもてなしMAP」、
もしくは下記QRコードを携帯電話スマートフォン
カメラで読み取ってご確認ください。



写真 / 初日の出を戴く楼門

防府天満宮は令和3年12月25日(土)からお正月

よ しゆく もうで 吊祝詣のご案内

～下記の日程よりお正月の縁起物・破魔矢・干支の置物などの頒布を致しております～

25日 (土)	26日 (日)	27日 (月)	28日 (火)	29日 (水)	30日 (木)	31日 (金)	元日 (土)	2日 (日)	3日 (月)
------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	-----------	-----------

令和3年予祝詣期間

令和4年初詣

令和4年 新春の祭事行事

※新型コロナウイルス感染症の影響により変更となる可能性がございます

歳旦祭 新始式 七草粥の会	一月一日 午前二時より 一月五日 午後三時より 一月七日 午前六時三十分より
弓始式 貞宮遙拝式 節分祭牛替神事 梅まつり	一月十日 午後一時より 一月十一日 午前十時より 二月二日・三日 二月二十日～三月六日

※参集殿二階神殿にて行い、状況により七草粥は容器にてお持ち帰り頂く場合がございます。

※節分祭牛替神事・梅まつりは同封のチラシをご覧ください。

- 令和4年 干支の縁起物
- ▲張り子
 - ▲土鈴
 - ▲萩焼
 - ▲一刀彫

〈ご祈願祭〉のご郵送申込について

同封の「新春に祈りを込めて」及び「厄除け星祭」の御神楽受付書と**振込用紙(赤色)**をご利用の上、お申込み下さい。尚、当宮HP上でも受付しております。※ご祈願初穂料は5,000円以上とさせていただきます。

〈お札・お守〉のご郵送申込について

同封の**振込用紙(青色)**の通信欄にお札・お守の種類と必要体数をご明記の上、初穂料に送料手数料 500円を添えお申込み下さい。尚、破魔矢・熊手等縁起物の送料は着払いとさせていただきます。※詳しくはHPを御覧下さい。